

## 教科目名 地理 (Geography)

学科名・学年 : 全学科 3 年

単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 後期 1 コマ, 授業時間 46.5 時間)

担当教員 : 笹岡伸矢, 東野哲太

| 授業の概要   |   |  |            |
|---|---|--|------------|
| 現在の世界を理解するために、本講義では、地形や気候からはじまり、人口や民族・宗教などといった観点から、系統的に世界を観察・分析します。それらを踏まえ、講義後半では、アメリカと日本を地誌的に考察することにします。   |   |  |            |
| 達成目標と評価方法   |   |  | 大分高専目標(A1) |
| (1) 世界の地形、気候について理解する。(定期試験)<br>(2) 世界の気候区分の基準や特色を理解する。(定期試験)<br>(3) 世界の人口分布・人口問題と、世界の生活文化／言語と宗教／民族と国家について理解する。(定期試験)<br>(4) アメリカと日本の特色と課題を理解する。(定期試験) |   |  |            |
| 回   | 授業項目  | 内 容  | 理解度の自己点検   |
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7   | 世界の地形 (1)<br>世界の地形 (2)<br>河川がつくる地形<br>海岸の地形、その他の特徴的な地形<br>地球規模でみた気温と降水量／大気の流れ<br>海洋の影響と気候の地域性、水の循環と利用<br>まとめ                      | ○系統地理的考察とは何かを理解できる。<br>○大陸や大洋の地形について理解できる。<br>○河川や海岸の地形について理解できる。<br>○気候の要素・因子について理解できる。<br>○大気大循環や海洋の大循環などについて理解できる。<br>○水の循環と利用できる水について理解できる。          | 【理解の度合い】   |
| 8   | 前期中間試験  |  | 【試験の点数】 点  |
| 9<br>10<br>11<br>12<br>13<br>14   | 前期中間試験の解答と解説<br>世界の気候区分<br>世界規模からみた植生／土壤<br>熱帯／乾燥帯の気候と生活<br>温帯／冷帯・寒帯の気候と生活<br>日本の気候、まとめ   | ○気候区分の基準・特色を理解できる。<br>○気候の変化に伴う植生の変化、成帶土壤や間帶土壤などについて理解できる。<br>○日本の気候について理解できる。   | 【理解の度合い】   |
| 15  | 前期期末試験  |  | 【試験の点数】 点  |
|   | 前期期末試験の解答と解説  |  |            |
| 16<br>17<br>18<br>19<br>20<br>21<br>22  | 世界の人口分布と人口増加<br>人口増加地域／減少地域と人口問題、日本の人口問題<br>世界の衣服／食生活／住居<br>世界の言語／宗教<br>民族と国家、民族・領土問題の多様性<br>国家群で結びつく世界、国際連合の役割<br>日本の領域と領土問題、まとめ | ○世界の人口分布と人口増加の要因を理解できる。<br>○多産や少子化の要因を理解できる。<br>○世界の生活文化(衣食住)の地域的特色を理解できる。<br>○世界の言語／宗教の分布を理解できる。<br>○民族と国家の関係、そしてそれらをめぐる問題を理解できる。<br>○国際連合の役割と課題を理解できる。 | 【理解の度合い】   |
| 23  | 後期中間試験  |  | 【試験の点数】 点  |
| 24<br>25<br>26<br>27<br>28<br>29  | 後期中間試験の解答と解説<br>指標によって異なる地域区分、地誌的な考察方法<br>アメリカ (1)<br>アメリカ (2)<br>現代世界と日本<br>まとめ  | ○地誌的考察とは何かを理解できる。<br>○アメリカを様々な視角から理解できる。<br>○世界の中の日本の特色と課題を理解できる。  | 【理解の度合い】   |
| 30  | 後期期末試験  |  | 【試験の点数】 点  |
|   | 後期期末試験の解答と解説  |  |            |
| 履修上の注意  | 私語はいっさい認めません。   | 【総合達成度】  |            |
| 教科書   | 山本正三ほか著、『新編 詳解地理B』、『現代地図帳』、二宮書店。  |  |            |
| 参考図書  | 適宜、授業中に紹介します。   |  |            |
| 自学上の注意  | 受講前に教科書の該当箇所を予習しておいてください。   |  |            |
| 関連科目  | 現代社会、政治・経済、日本史、世界史。   |  |            |
| 総合評価  | 4回の定期試験により評価します。総合評価 60点以上を合格とします。再試験は、総合評価が 60点に満たない者に対して実施します。  | 【総合評価】 点   |            |